

比較により新たな価値観に気付くことを通して、

『よりよい生活』を探究する家庭科の学習

I 家庭科研究の方向性

1 主題設定の理由

家庭科においては、児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践することが大切です。その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びも重要になります。

これまでの本校の研究では、実践的・体験的な活動及び言語活動の充実による課題解決を通して、家庭や地域に積極的に関わる態度の育成を目指してきました。日常生活から課題を設定する必要感や次の課題への意欲が高まった一方で、知識及び技能を活用して課題を解決する力の育成や、家庭において継続的に実践することへの課題が残りました。継続的な実践に至らなかった一因は、日常生活の営みを断片的に切り取った題材構成にあると考えられます。家庭生活において、日常生活の営みは全てが相互に関連し合っていることから、その関連性に目を向け、日常生活の営み方を工夫し続けたいような題材構成の工夫が必要だと考えました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。家庭科における探究の姿として、「家庭科で身に付けた力を家庭生活で活用し、発展・応用させ工夫し続けること」と押さえました。

そこで、研究主題を「比較により新たな価値観に気付くことを通して、よりよい生活を探究する家庭科の学習」と設定しました。「比較により新たな価値観に気付く」とは、複数の生活事象において、「おいしい」「心地よい」などの視点を設けて比較することにより、児童が家庭及び地域の生活の営まれ方や特性に気付き、自分にとっての「よりよい」と感じる価値観を見いだす学習を表します。「よりよい生活を探究する」とは、知識及び技能を習得する過程において、よりよいと感じる生活の在り方を徐々に変化させ、高めていくことを表しています。「よりよい生活」とは、知識及び技能を活用して営む家庭生活の中で、形や定義がなく、よいと感じる尺度が個別に異なる生活であり、家庭科の題材全体を通して常に求めていくものです。

2 目指す児童の姿とその具体

- 家庭及び地域の生活に主体的に関わり、「よりよい生活」について考える児童
- 家庭科で身に付けた知識及び技能を、家庭及び地域での実践において活用し、定着させ、高め続ける児童

「家庭及び地域の生活に主体的に関わり」とは、家庭科の学習の中で、自分の家庭及び地域の生活を想起しながら学習することを指します。「『よりよい生活』について考える」とは、家族及び地域の人々が営む家庭及び社会の中で、便利さ、快適さ、質の高さ等、など自分にとって価値が高いと感じるものを追究することです。「家庭及び地域での実践において活用し」とは、教師が活用の場を設定しなくとも、児童が自ら実践したいという意欲をもって家庭及び地域で実践することを表します。「定着させ、高め続ける」とは、家庭科で身に付けた知識及び技能を活用し続けることで定着させ、「よりよい生活」に適したものへと発展させていくことを表します。

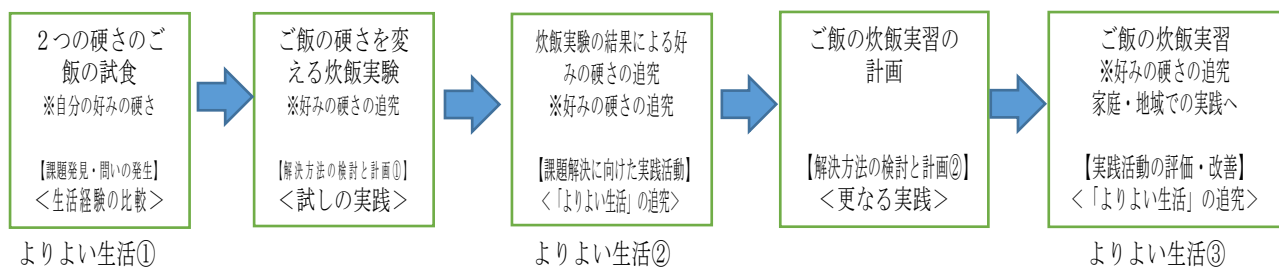
II 研究内容の具体

1 「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫

児童にとって日常生活の営みは、育ってきた家庭及び地域そのものを示しており、自己の家庭及び地域の環境を見つめるだけでは、「よりよい生活」に対する自分の考えに気付きにくいと考えます。自分が目指す「よりよい生活」にはどの視点に関わるのかを、他者との比較や科学的根拠により明らかにしていくことで、「よりよい生活」を見付けることができると考えます。

そこで「生活経験の比較・試しの実践・『よりよい生活』の追究・更なる実践・『よりよい生活』の追究」の流れで題材を構成しました。また、学習の中で活用する知識及び技能については、5年生では単一の条件下で、6年生では複数の条件下で比較・検討できるように配置することで、2年間の学びを系統的にできると考えました。

題材の学習過程例（第5学年 食べて元気に「ご飯を炊いてみよう」）



2 「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫

児童が「よりよい生活」を追究するためには、生活の営まれ方やその根拠を理解し、それらの違いを比較し、考えを整理することが必要です。その過程において、知識及び技能を身に付け、一人一人が自分なりの「よりよい生活」の在り方に対する考えを深めていくことで、探究が促進されると考えます。そこで、「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫を考えました。

○「よりよい生活」を支える視点の整理

- ・複数の生活事象の提示（自己の生活経験との比較）
 - ・よりよい生活を支える視点と知識及び技能に対する記述（生活経験に対する考えの変化）
- （例）第6学年「いためて作ろう朝食のおかず」→栄養，味付け，色どり，エコ，短時間調理

○「探究する活動」を支えるICT機器の活用

- ・「ロイロノート・スクール」の活用例

「探究する活動」を支える知識及び技能を補う活用	探究を促進させる情報の比較
<p>映像資料の充実</p>	<p>提出箱を利用した情報の比較</p>

3 「よりよい生活」を追究する意欲につなげる評価の工夫

家庭科の学習で身に付けた知識及び技能は、児童が進んで自己の家庭において活用しようとすることで、定着が図られていきます。そのためには、「よりよい生活」を追究しようとする意欲を高め、その態度を養うことが大切です。そこで、「よりよい生活」について考えられたかどうかについての自己評価や振り返りを蓄積させ、それらを児童が定期的に見直す時間を設定しました。また、指導者が、一単位時間の導入とまとめの時間にそれらを紹介しました。

○自己評価と振り返りの視点

- ・自己評価：視点についての自己評価、「よく考えた，まあまあ考えた，あまりよく考えていない，考えていない」の4段階で記録
- ・振り返り：これまでの自分と比較し，自覚した変化について記述

<2年次研究の重点>

- ・「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫
- ・「よりよい生活」を追究する意欲につなげる評価の工夫

Ⅲ 研究実践

6年生実践 『こんだてを工夫して』

実践のテーマ：献立作成で重視する視点に対する考え方を比較することで、
献立の立て方を理解する学習

1 研究授業のねらい

本題材は、B「衣食住の生活」(2)、(3)及びC「消費生活・環境」(1)を関連付けた学習です。B「衣食住の生活」は、米飯及びみそ汁を中心とした1食分の献立作成の方法を知り、栄養バランスを考えた食事について考え、ゆでたりいためたりして調理できるようになることが目標です。C「消費生活・環境」は、調理に使う食材の選び方や買い方を理解し、近隣のスーパーにおいて自分で選択・購入できるようになること、調理と消費行動を関連付け、家庭で活用できる知識及び技能を身に付けようとする実践的な態度を育むことが目標です。生活の営みに係る見方・考え方は、「健康」、「生活文化の創造」です。

指導にあたっては、自分なりによりよいと感じる献立作成の視点を友達の考え方と比較させることで、新しい価値観と出会わせ、よりよい献立に対する考え方を深めることです。そのために、1時間目の生活経験の比較の段階では、ICT機器を活用して、献立名と材料及び調理行程を映像化した資料を活用しました。そして、調理に対する児童の知識や技能、経験不足を補い、健康になる最高の献立を作成するという課題を設定しました。2時間目の試しの実践の段階では、献立を構成する視点を基に献立を工夫することで、よりよく改善できることに気付かせました。これらの学習を経て、児童が家庭において学習を生かして1品追加するなど、家庭生活に積極的に関わろうとする態度を育みたいと考えました。

2 題材の指導計画 (13時間扱い)

階	時間	◇主な学習活動 ・ 資料	『よりよい生活』を追究する 児童の姿
生活経験の比較	①	◇どのように料理や食品を組み合わせて食べると良いのか考える。 ・食事調査結果(個人)、給食の献立表 ・献立に対する考え方(インタビュー) ◇題材の課題を設定する。 みんながおいしいと思う「健康になる最高の献立」を考えよう	料理の組合せについて、家庭における生活文化の営みを理解しながら、健康や嗜好を考えて課題を設定する姿
試しの実践	②	◇献立の立て方を考える。(一汁三菜、米飯とみそ汁中心) ・動画付きカード主菜7枚、副菜12枚 ◇栄養バランスを確かめながら、色どり、味のバランス、季節感、費用等の視点について自分の考えをまとめ、献立を考える。 ・視点を調査するアンケートカード①(以下アンケートカード) ・友達の立てた献立を閲覧できる提出箱①(以下提出箱)	献立を立てる際の視点について考え、自分や家族が重視したいと考える視点を見いだす姿
よりよい書寫	③ (本時)	◇重視したい視点を基に、献立を工夫する。 ・旬の食材を紹介するサイトを閲覧できるウェブカード ・アンケートカード② ・提出箱②	友達と自分の献立の視点に対する考えを比較する姿
試しの実践②	④ ⑤ ⑥	◇食材の選び方や買物の仕方について考える。 ・ヨーグルトの商品情報カード、提出箱 ◇買物メモを基に、価格調査をする。 ・イオンネットスーパーのホームページ ・アンケートカード③、提出箱③	買物の学習から、食材選択と購入についての視点を得て、献立の視点を考える姿
更なる実践	⑦ ⑧ ⑨	◇買物の計画を立てる。 ◇献立を見直して、調理計画を立てる。 ・アンケートカード④、提出箱④ ◇買物をする。	家庭生活に生かせる献立の立て方等の食生活の営み方を追究する姿

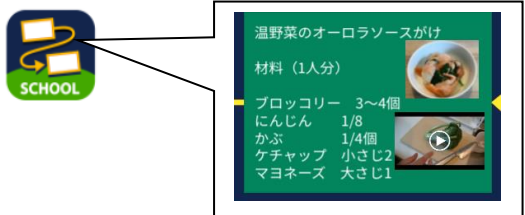

よりよい生活の追究②	⑩ ◇主菜1品と副菜2品の調理実習を行う。	友達との交流により、献立作成において重視した視点の違いを知り、よりよい食生活を追究しようとする姿
	⑪ ◇調理の振り返りを行い、友達から「最高の献立」にするためのアドバイスをもらう。	
	⑫ ◇「最高の献立」にするために、自分の献立や食材購入、調理計画等を見直す。	
「最高の献立」を更に工夫して、誰もが健康になれる献立をみんなに味わってもらおう。		

3 本時の学習

(1) 本時の目標

1食分の献立の視点について再考し、自分が工夫したところや、友達の考えを聞いて感じたことを交流することを通して、主菜や副菜の組合せを工夫することができる。(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開 (13時間扱いの3時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 献立の視点を振り返る。 「家庭により、無添加の食材を選ぶ、季節感を出す、経済的な食材を選ぶなどの工夫があった。」 2 課題を確認し、解決の見通しをもつ。	
重視したい視点をもとに、献立を工夫しよう。	
3 自分が選択した主菜1品、副菜2品のカードを基に、工夫を考える。 「栄養バランスと色どりを重視したいので食材を○から△△に変更したい。」 「副菜で使用するきゃべつについて、環境への配慮を考えて、残菜が出ないようにしんも使いたい。」 「季節感を出すために、秋の食材である○○を副菜の食材に取り入れたい。」	○献立を作成するための調理の知識・技能を補うICTの活用 研究視点2 
4 アンケートの結果から、献立の視点について工夫したところを発表し合い、友達の考えを聞いて感じたことを交流する。 「自分としては、季節感を出すことを考えていなかったが、季節感を出すことで、旬の味わいを楽しめることを知った。」 「環境への配慮について考えていなかったが、社会で学習したフードロスのお話を思い出して、残菜の出ない調理をしようと思った。」	○「よりよい献立」の視点の可視化① ○探究を促進させる情報の比較 研究視点2 ・ロイロノート・スクールのアンケート機能を用いて、8つの献立作成の視点の中で、重視した視点を回答させる。 
献立を工夫するためには… (様々な要素について考える, など)。	
5 本時の学習を振り返る。 ○8つの視点についての自己評価と振り返りを書く。	○「よりよい献立」の視点の可視化② (変化を朱書き) ○比較から自らの考えを自覚する振り返りの工夫 研究視点3

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿
 ○献立の視点についての自分や友達の考えを比較し、よりよい献立を追究しようとする児童の姿。

4 授業の実際

『よりよい生活』の追究過程を整理する指導の工夫

本題材の第2時に、「ロイロノート・スクール」のテキストカードを用いて、一度、献立作成を行いました。児童はカードにある料理の写真から、色どりや食材の重なりなどを考慮して献立作成を行いました。

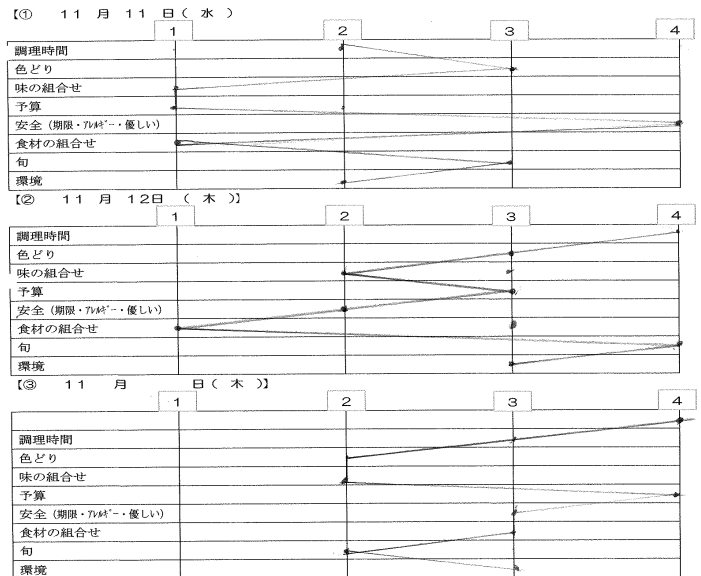
本時（第3時）の献立の組合せを工夫する場面では、児童の知識及び技能を補うために、映像資料を見せました。児童はそれを見ながら工夫を考えました。材料や作り方を文字だけでなく映像で確認させたことで、味の組合せや旬、調理時間を意識したり、買物疑似体験で予算を見直したりした児童が増えました。



【ICTを活用して児童が考えた献立】

「よりよい生活」を追究する意欲につながる評価の工夫

本題材の第1時には、児童が調べてきた献立作成の工夫を基に、視点についての話し合いを行いました。A児は、友達の考えと自分の考えを比較することを通して、安全面を重視したいという考えをもちました。第2時には、献立カードを見ながら献立を考えました。自己評価では、A児の調理時間（2から4）、予算（1から3）、の視点に対する考えが大きく変化しました。第3時では、予算（1から4）、食材の組合せ（1から3）の視点が変わりました。このように、蓄積した自己評価を見ながら振り返りをさせたことによって、児童は、自分が重視している視点が変わっていることを自覚することができました。そのことが、「よりよい生活」を追究する意欲の高まりにつな



【A児の自己評価①第1時、②第2時、③第3時（本時）】

①《振り返り》

私は調理時間を重視して選びました。友達が「予算」や「期限」の事を考えていて私も取り入れたいと思いました。最高の献立にするためには、色どりや旬も入れることでより最高の献立に近づけると思いました。

②《振り返り》

私は、旬を重視しました。旬を取り入れることにより、色とりどりのこんだてになるし旬ではないときよりおいしいと思、たからです。私は環境、は全く考えがなかったのですが、Aさんの考えを聞いて同じ食品を使うことでロスがないという考えがでてくるほっとしたので、自分も考え、おつこのことを考えはかす作りました。

③《振り返り》

前と同じ組み合わせた、たか、食材を種類ごとに分けて、どのような組み合わせがいいかを考えてみました。買物をする前に予算をし、かり考えてから買物しました。また、旬のものを使って料理も入れたから楽しみました。（てまのE）

【B児の振り返り①第1時、②第2時、③第3時（本時）】

がったと考えます。振り返りの記述からも同様な児童の姿が見られました。B児の振り返りの記述から、友達の考えから重視したい視点が変わったことがわかります。特に、第2時では、別の友達の考えを聞き、旬という新しい視点を重視して献立を考えたり、8つ全ての視点に目を向けたいと考えたりしていました。第3時では、友達との交流から、買物という視点も重視したいと考えていました。

このように、買物から調理までの、食の営みに関わる一連の流れを意識した題材構成における考えの変容を蓄積したことにより、児童が献立を立てる際に様々な視点で考え、工夫しようという、探究的な学びにつながりました。

IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、『よりよい生活』の追究過程を整理する指導の工夫』『よりよい生活』を追究する意欲につなげる評価の工夫」を重点として研究を進めました。

1 研究の成果

- 「よりよい生活」を追究する過程において、児童自身が取り入れたいと考えた視点を軸として自分の生活を見直したことで、児童は生活を構成する様々な視点の存在に気づき、生活をよりよくしたいという意欲を高めることができました。
- ICT機器を活用して学習を進めたことで、知識及び技能を補ったり、情報を比較したりすることが容易になり、児童の「探究する活動」を促進することにつながりました。
- 自己評価として、「よりよい生活」の視点に対する考えを4段階で可視化したことにより、児童は、自分の視点に対する考え方を客観的に振り返ったり、友達の視点に対する考え方について交流したいと考えたりしました。その結果、家庭及び地域などといった家庭科の学習時間以外の場面においても、視点を軸として考える姿が見られました。

2 今後の課題

- 児童の追究過程において、学習内容に対する視点が多くなり過ぎると、視点一つ一つの内容の押さえや視点同士の関連を考えることが複雑になりました。2年間の学習において、全ての視点に触れられるよう、学習内容ごとに精査する必要があります。
- 「よりよい生活」という実態のないものに対する児童の考え方を整理するために、視点を可視化したり、振り返りで「よりよい生活」に対する考えを明らかにしたりしました。その結果、授業のまとめに多くの時間を要しました。今後は、短時間で取り組むことができ、児童が負担に感じないようなまとめ方を検討する必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 家庭 令和2年6月
- 初等教育資料No. 971 「内容『A家族・家庭生活』における家庭科の授業づくり」
文部科学省 東洋館出版社 平成30年9月
- 初等教育資料No. 985 「内容『B衣食住の生活』における家庭科の授業づくり」
文部科学省 東洋館出版社 令和元年10月
- 生活を科学し、実践する力を育てる授業づくり 子どもがいきる家庭科
吉原崇恵編著 開隆堂 平成25年6月
- 題材設定から評価までバッチリ！小学校家庭科授業づくり ベストモデル&ワークシート
筒井恭子編著 明治図書 平成26年10月
- 改訂版 小学校の教師をめざす人のための「小学校家庭科」指導法テキスト
古田豊子編著 開隆堂 平成27年9月
- 楽しもう家政学 あなたの生活に寄り添う身近な学問
『家政学のじかん』編集委員会編集 開隆堂 平成29年4月
- 新学習指導要領解説 小学校家庭
長澤由喜子編著 開隆堂 平成29年10月
- コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム
鈴木明子編著 東洋館出版社 令和元年7月
- 小学校家庭科 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫
筒井 恭子編著 東洋館出版社 令和2年10月